

栗原市教育研究センター通信

第9号 平成30年9月発行

頑張れ!! 初任の先生たち! (小学校編)

今回のセンター通信は、今年「学校の先生」となった皆さんからいただいた「4～8月までを振り返って」を掲載いたします(第8号は中学校、第9号は小学校)。どれもが初々しい内容です。

高橋 奈津子(たかはし なつこ)先生 <築館小学校>

社会人として、教員として、初めてのことばかりの日々もあっという間に5か月が過ぎました。毎日が失敗の連続ですが、何とかやってこられたのも、まわりの先生方のおかげです。仕事に関するアドバイスはもちろん、私の食生活についても心配してくださいます。本当に感謝してもしきれません。

そしてほかに感謝したい相手といえば、やはり子どもたちです。悩まされることもあります。喜ばせてくれることもたくさんあります。子どもの夏休みのある日の一言日記に、「先生から暑中みまいがとどいた。」と書いてありました。子どもの思い出がたくさんつまった休みの中に、私からの暑中見舞いが届いたことを取り上げて日記に書いてくれたことが、たった一言でもうれしかったです。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、大好きな子どもたちと先生方と、今年度、残りの7か月を全力で駆け抜けていきたいです。



佐藤 起嘉(さとう たけひろ)先生 <若柳小学校>

教員生活が始まり4か月が経とうとしている。めまぐるしい毎日の中、教員生活のリズムが少しずつ身に付いてきたと感じている。なかなかうまくいかないときもある教員生活ではあるが、その中で子どもの成長を目の当たりにし、充実感を得ることも多い。特に印象に残っているのはプールの授業だ。最初は顔も付けられなかった児童と手をつなぎながら、何回も顔を付ける練習を繰り返した。その児童は、夏休み明けの学年記録会で、数メートルではあるがクロールで泳げるようになった。練習中たくさんほめてあげたことが、この子どもの成長につながったのではないかと感じる。教えることの楽しさや成長を目にする喜びを感じた瞬間であった。子どもの日々の成長を自分の糧にし、これから続く教員生活も頑張っていきたい。

中橋 美香(なかだて みか)先生 <栗駒南小学校>

今年度から新規採用として栗駒南小学校で勤務している中橋美香です。講師を4年間経験し、教諭になることができました。現在、3年生の担任になり、24名の子どもたちと生活しています。4月からの5か月間は、毎日が本当に慌ただしく過ぎていきました。最初は、分からないことやうまくいかないことが多く、楽しいと思える余裕がなかったのですが、この5か月間の中で子どもたちと関係を深めることができ、今は毎日、少しずつ成長する子どもたちの姿が楽しみです。また、自分が頑張れば頑張るほど、子どもたちの「できた」という成長の場面を見ることができ、その姿からたくさんのパワーをもらっています。これから、まだまだ大変なことがあると思いますが、子どもたちのために頑張っていきたいと思います。



《初任者研修市町村教育委員会研修の主な研修内容》

- I (5月10日):【史跡等見学】 山王ろまん館、仙台藩花山村寒湯番所跡、自然薯の館、細倉メインパーク、くりでんミュージアム、金成歴史民俗資料館 ほか
- II (8月20日):【講話】「新任教員に期待すること」教育委員会教育部 多田次長
「法的観点から見たいじめ問題の初期対応のポイント」築館法律事務所 庄司弁護士
【移動研修】「栗駒山麓ジオパーク視察研修」ジオパーク推進協議会職員、ジオガイドの案内

頑張れ!! 初任の先生たち! (小学校編)



小野寺 莉沙 (おのでら りさ) 先生 <鷺沢小学校>

4月から教員として働き始め、子どもたちと毎日向き合って奮闘する日々を送り、気が付くと夏休みに突入してしまいました。

1学期前半を振り返ると、非常に忙しく、教員の生活がこんなにも忙しいのかと驚くことが多かったように感じます。低学年の担任ということで、余裕があると思っていましたが、委員会やクラブ、放課後の指導で忙しいこと

を、教員として働き始めて知りました。

興味本位で子どもたちに私の印象を聞いてみると、「いつも、わすれたって言って走ってる気がする」と言われました。何もかも初めてで、心にも時間にも余裕がない姿を子どもたちにも見られてしまっていると感じた瞬間でした。それと同時に、子どもたちは教員である私をよく見ていることに気が付きました。子どもたちにいつ見られていてもいい、余裕がある教員になりたいと思っています。しかし、夏休み明けから、毎日バタバタと走り回る毎が続いています。

櫻井 正如 (さくらい まさなお) 先生 <志波姫小学校>

初任として、早くも5か月が過ぎましたが、今とても感じていることは講師と教諭との違いです。これまで講師経験があり、教員としての経験が幾ばくかありますが、初任となってとても勉強させられる毎日を過ごしています。一番は研修機会がとても豊かであることです。講師時代に学べなかったことを学び、教師としての力を磨くことができていると実感し、毎日を過ごしています。また、同僚の先生からもたくさんのご指導をいただき、学校の内外で充実した教員生活を送っています。そして何より講師時代にはなかった「同期」の先生方と悩みや仕事の話題を共有できることが励みになっています。これからもたくさんの先生方の力をお借りして、一日も早く先輩の先生方に近づけるように毎日自己研鑽に努めていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。



豊嶋 咲 (とよしま さき) 先生 <金成小学校・養護教諭>

4月から5か月の間、周りの先生方に支え導いていただきながらなんとか一日一日を過ごしてきたように思ひます。

まだ、子どもたちの顔と名前が一致しなかったとき、よく腹痛を訴えて来室する子がいました。話を聞くうちに、友達との間に問題があることが分かり、担任の先生と連携して対応した結果、その子は保健室に来なくなりました。初めて名前を覚えたその子が保健室に来なくなって少し寂しかったことを覚えています。しかし、後日その子と廊下ですれ違ったとき、保健室では見ることができなかった笑顔で友達と話している姿を見て、心の底から「よかった!」と思ひることができました。

「咲先生」と呼ばれることに少しずつ慣れてきた今、子どもたちは心と体の健康があってこそ楽しく学校生活を送ることができると実感しています。現場でしか学べないことをたくさん吸収して、命を守り、笑顔で教室で過ごせるような支援ができる養護教諭を目指したいです。

高橋 優 (たかはし ゆう) 先生 <志波姫小学校・養護教諭>

4月から小学校の養護教諭として勤務し始め、早5か月が経ちました。もう5か月も経ったのか…と思ひる反面、こんなにたくさんの経験をしたのにまだ5か月しか経っていないのか、と思ひもします。

自分が児童の頃は「保健室の先生って暇そう」と思ひていましたが、実際は子どもが来室していない時間は大量の事務仕事や学校の環境整備などがあり、大変な仕事で、暇なように見せるというのなかなか難しいなど、最近すごく感じています。それでも、子どもたちが保健室に来てくれるとうれしいし、ほっとしたような気持ちになります。元気がない子が来たときに、一緒におしゃべりをして最後には笑顔で教室に戻っていく姿を見ると、少しでも力になれたかなと思ひ、私も元気になります。

まだまだ自分に自信がなく、失敗することもたくさんありますが、子どもたちにも先生方にも頼られ、元気をあげることでできる養護教諭を目指して力を付けていきたいです。

